

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270500549		
法人名	社会福祉法人 青森民友厚生振興団		
事業所名	青山荘グループホーム		
所在地	〒037-0011 青森県五所川原市大字金山字盛山42-8		
自己評価作成日	令和4年9月20日	評価結果市町村受理日	令和3年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和4年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>開放感があり、リビングから園庭を眺め、ゆったりと四季の移り変わりを感じる事ができる。畑で穫れた野菜や山菜をメニューに取り入れ、季節感を味わって頂いている。併設の特養やデイサービスを自由に行き来し、馴染みの関係が途絶える事なく、安心して過ごせる。コロナ禍で外出が制限されているが、園庭で流しそうめんや食事会等をして気分転換できている。天然温泉でゆっくり温まっていただく事が、健康長寿の源となっている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所に取り付けられている数多くの窓ガラスは、周りを見渡すには十分に大きく、四季の移り変わりや、様子を一望でき、一年中変化を楽しむことができている。コロナ禍ではあるが、併設の事業所を利用している方々と自由に面会することで、地域との交流も途絶えることなく継続ができている。また、職員は尊厳の気持ちを持って対応し、その人らしく、ストレスを感じることなく過ごす事が出来る様、個性を大事にした支援が行われている。健康状態の変化にも法人が対応することを伝えることで、本人・家族が安心して生活ができる場所となっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をリビングの見える位置に掲示し、職員間で共有している。また、出勤時、理念を読み上げてから日々のケアに取り組んでいる。	地域の中で、その人らしく生活が出来ることを願い、毎朝職員は復唱し、日頃のケアに取り組んでいる。また、理念については見直しを毎年行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で年間行事の計画に沿った交流はできていないが、以前は町内会の一員として、作品の展示や収穫した野菜の出品をしていた。また近隣の方がりんごや野菜の差し入れ等で来られている。	町内会の会員としてコロナ禍前は活動を共に行っていたが、現在は地域活動自体が休止している。地域の方から、野菜や果物が届くことで交流が途絶えることなくできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で日々の生活状況や役割等を報告し理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、書面にて近況報告、活動内容の他、満足度調査、防災訓練等の結果報告をして意見、助言を頂き、サービス向上に取り組んでいる。	コロナ禍により運営推進会議は中止となっているが、情報共有の為、必要事項を郵送したり、電話連絡にて報告したりするなど工夫している。意見や助言をいただいた時には、職員で話し合い、サービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の他、電話メール、FAXにて、聞きたい事や相談事がある際は、その都度連絡している。	日頃から連絡を密にとるため、電話や出向くなどして協力関係を継続している。アドバイスを頂くこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人での委員会の他、内部研修や内容に応じて外部研修にも参加している。身体拘束をしないケアを基本とし、学んだ内容は職員全員に周知している。	法人全体で身体拘束排除に向けた取り組みを行い、グループホームでも更に勉強会を開催し、日頃から職員一人ひとりが理解し、意識して拘束をしないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会が中心となり、アンケートの実施や事例について話しあった結果を、全職員で共有し理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度について、資料を掲示し、情報提供できるように学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用者家族等に事業所のケア方針について説明し、不安や疑問点等がないか伺い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関へ意見箱を設置している他、面会やケアプラン作成時に要望等がないかその都度伺っている。また利用者満足度調査から出た意見をケアプランへ反映されている。	意見箱を活用される方はいないため、定期的実施される満足度調査や、訪問時の際の聞き取りで利用者及び家族の意見や要望を確認し、実施策や改善策を話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のコミュニケーション、毎月の会議の他、年1回面談を行い、意見や提案を聞き入れ、運営に反映させている。また働き方改革研究会が中心となり、職員全員が働きやすい職場であるようにと環境を整えている。	管理者は定期及び随時面談を行い、職員が働きやすくなるように配慮している。法人への相談が必要な内容についても環境整備のため働きかけを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、必要に応じて勤務時間の見直しや状態変化に応じられるようにしている。また、勤続年数に応じて事業主より表彰がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の目標とする資格取得や希望する研修への参加を積極的に働きかけている。研修後は報告書を作成、会議にて報告し全職員に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で、オンライン研修等が多くなり、以前に比べると同業者との交流は少なくなっているが、併設の施設で、勉強会等を行い、サービスの質向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	在宅サービスを利用している際は、面談したり、担当ケアマネからの情報を共有し、ご本人が安心して暮らせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に見学に来て頂き、GHの雰囲気を感じてもらっている。ご本人、ご家族のニーズや課題を把握し信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネからの情報提供や現状を確認しながらニーズを明らかにし、必要とするケアの実現に向けて必要なサービスが受けられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれ得意分野が発揮され、一緒に作業やお手伝い等をして、共同生活の中で共に寄り添った関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に電話やお便りにて近況報告を行っている。また受診時家族の協力が不可欠である事、共に支援していく為、情報交換を行い、協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	窓越しやリモート面会の他、家族や知人からの電話、手紙等の取次ぎの支援を行い、それまでの関係が途切れないようにしている。	併設するデイサービスセンターや特別養護老人ホームに知り合いが多くいるため、出向いて交流している。コロナ禍で買い物や外出は控えているが、手紙や電話で関係が途切れないように配慮したケアを実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士トラブルにならないよう職員が仲介しながら、得意な事や交流する時間を設け、孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去先へ出向き、これまでの情報を伝え、ケアの継続をして頂き、最期まで安心して暮らせるように働きかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の他、訪室時、入浴時にご本人の思いや意向の把握に努めている。また、家族からの意見や情報を聞きながら、サービスに繋げている。	利用者一人ひとり普段の生活での会話の中や、特に入浴時は個別に対応できることから、意見も聞きやすく、その時間を大切にし意向を確認し、ケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や趣味・嗜好等を参考にし、安心して暮していただけるように支援している。入居後のご本人とのコミュニケーションやご家族からの情報からも把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の生活状況や、入居後の1日の状態を申し送りノートへ記録し、職員同士で情報交換しながら把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人から意見を聞く他、ご家族様からの要望、年2回の満足度調査、職員同士の意見・気づきを聞き、介護計画へ反映させている。	会議には本人も参加され、満足度調査、センター方式を用いて、ケアマネジャー、家族、職員とで、現状に即した介護計画を作成し、統一したケアの提供が出来ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートへ日々の状況を記録し、職員間で情報を共有している。リスクがある場合は、毎月の会議で話し合い、介護計画見直し時に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の車両を活用し、ドライブや突発的な受診の送迎を行っている。また、個別に対応できる買い物や外出にも応えられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ禍で参加していないが、以前は地域行事(公園の草取りやゴミ拾い等)に積極的に参加していた。また、避難訓練にも協力して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時、ご本人、ご家族の希望を伺い、それまでのかかりつけ医や馴染みの医療機関の受診が継続できる体制を整えている。	本人や家族の希望を確認し、かかりつけ医の受診が必要な場合は、継続できる体制を整えている。緊急時についても適切な医療が受けられるよう支援し、家族への報告が行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養看護師が週1回、健康管理にきている。必要に応じて、その都度看護師へ相談し、助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、支援方法に関する情報を医療機関へ提供し、退院に向けた支援ができるよう病院関係者と連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、重度化した場合の対応を説明し、希望を伺っている。また急変時、看護師と連携しながら、医療機関との調整を図っている。	重度化した場合の対応を本人・家族へ説明し、法人の特別養護老人ホームと連携できる体制であることを知らせている。常日頃グループホームの看護師と連携し取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルがすぐ閲覧できるように掲示している。併設の特養へAEDが設置されており、定期的に救命蘇生方法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の特養、デイサービス、GHが福祉避難所となっている。法人全体の訓練の他、GHのみでの訓練を行っており、地域の消防団の方の協力体制ができています。	グループホーム、併設の特別養護老人ホーム、隣接のデイサービスセンターは指定福祉避難所となっており、定期的に法人全体で防災訓練が行われている。グループホーム単体でも実施し、消防団の参加もある。有事に備え必要物品も準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った話し方、声のトーンで話仕掛け、プライバシーが侵害されないように心掛けている。	ユマニチュードの勉強会を実施し、一人ひとりの人格を尊重したケアを心掛けている。プライバシーも損ねないよう常に意識しながら、日頃から取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択しやすい質問や本人の表情、仕草に応じた言葉掛けをし自己決定しやすいような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムを大切にした支援を心掛けている。作業やレクリエーションを無理強い行わず、ゆったりと過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時の衣類選びは、ご本人の意志を尊重しながら選んで頂き、職員はさりげなくアドバイスしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食事の下準備やおやつ作り、片付けをしている。特養の管理栄養士の献立を参考に、野菜や山菜など、旬の物を取り入れ、季節感を味わって頂いている。	オープンキッチンでは、職員と利用者が一緒に準備や盛り付け、配膳や後片付けなどを行っている。食材を前に会話が弾み、頂き物や収穫した物での作業は自然と笑顔になり、楽しいひと時となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好、咀嚼、嚥下能力に応じて、食べやすいように小さくしたり、柔らかくしている。水分摂取量が不足している方は、本人の好む飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、口腔内の清潔を保持している。必要があれば、歯科医師訪問時、相談し指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりに合った排泄パターンを把握し、羞恥心に配慮しながら声掛けを行っている。自分で出来る方へパット準備や片付けの支援をしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを職員が把握しており、さりげなく居室のトイレに誘導している。自立に向けた支援を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を提供している他、水分量の強化や歩行運動への働きかけをしている。また、必要があれば、医療機関と相談し下剤の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日や時間を決めず、できるだけ本人の希望を伺っている。一人ひとりの入浴方法に合わせて、ゆっくり入浴できるように配慮している。	ヒノキの温泉風呂で毎日でも入浴ができる状態にし好評を得ている。入浴が苦手な利用者においては、曜日や時間、対応者を考えながら対応し、楽しんでいただけるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて休憩時間や活動時間を観察し、生活リズムを整えられるようにしている。また使い慣れた枕や毛布を使用して頂き、安眠できる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容をファイリングし、内容が把握できるようにしている。処方内容の変更時、状態観察、記録を行い、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に合わせた役割や得意な事、興味のある事をその都度伺いながら、一緒におこなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外へ散歩に行ったり、園庭でお茶をし気分転換している。季節の行事では、梅・桜祭りや花菖蒲を見にいたり、個別で買い物へ出掛けている。	コロナ禍により外出は難しい状況であるが、敷地内の散歩を楽しんだり、畑での作物の収穫や花植えなどをして楽しんでいる。また、通院時に本人の希望するルートを通ったりなどもしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方は少額所持しており、自由に自動販売機を利用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングにある電話で掛けたい時、いつでも対応している他、オンライン面会や手紙の代筆も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから庭園を眺め、四季の移り変わりを感じて頂いている。また四季にあわせた飾り付けや花等で心地よく過ごせるようにしている。	窓は大きく、外観を見渡すことができ、四季の移り変わりを十分に堪能できる。リビングやキッチン等も明るく、空気も淀みなく、さわやかに過ごす事ができている。温度や湿度も温度計や大型加湿器で管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の所々に椅子を置き、いつでも休めるようにしている。また、玄関前にテーブルとベンチを設置し、散歩後にコーヒーを飲みながら談笑できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望によりテレビや冷蔵庫など持ち込まれている。また写真などを飾り、本人の好むしつらえになっている。	自宅で使用していた馴染みの物等を持ち込み、本人が使用しやすいようにレイアウトし、心地よく過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かりやすいように掲示している。個々の状態に合わせ、ベッドの手すりの設置や、移動用のベッドを使用し安全に配慮している。		